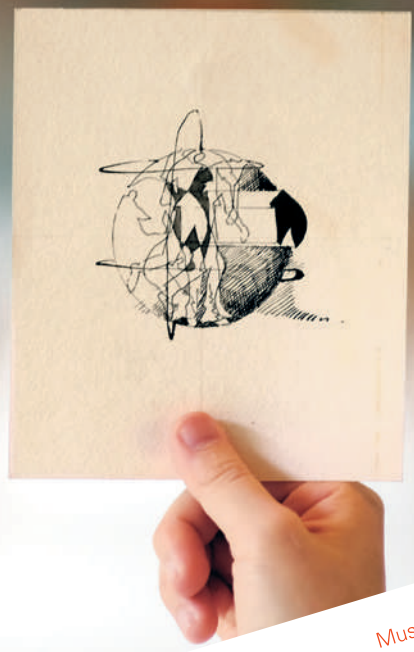




カット原画：右上より時計回りに、駒井哲郎、中川一政、宇佐美圭司、木村狂八、飯田善徳、長次郎、海老原喜之助、秋須高徳、中村研  
© Ari Komai 2023 / JAA2300092



カット原画：宇佐美圭司

The Illustrated World of Magazines: Sekai and Kurashi-no-techo

Museum Collection II  
ミュージアム コレクション II

世界カッターの  
みる雑誌に

2023年  
8月5日(土)  
11月19日(日)

『世界』(岩波書店)と  
『暮らしの手帖』(暮らしの手帖社)

■開館時間 午前10時~午後6時(入場は午後5時30分まで)  
■休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館) ※9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)は開館、9月19日(火)、10月10日(火)は休館 ■観覧料 一般200円、大生150円(120円)、65歳以上・小学生100円(80円)  
\*障害者の方は100円(団体は80円)。ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書を提示のうえ、お申し出ください。\*( )内は20名以上の団体料金。  
\*世田谷区内在住、在校の小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料。\*同時開催の企画展子ケットで本展をご覧いただけます。

世田谷美術館  
SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2  
Tel. 03-3415-6011 (代表)  
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>  
展覧会のご案内: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)



カット原画：花森安治



カット原画：すべて花森安治

# 雑誌にみるカットの世界

ミュージアム コレクションⅡ  
Museum Collection II



1



2



3



4

1『世界』創刊号(1946年1月)表紙/2『世界』第380号(1977年7月)目次(部分)/  
3 カット原画『世界』第362号(1976年1月) 画:駒井哲郎/4 カット原画『世界』  
第380号(1977年7月) 目次 画:加納光於

※1,2は岩波書店所蔵資料

## 終

戦後まもなく、それまで抑圧されていた言論が活  
気を取り戻しつつあった頃、雑誌の創刊や復刊も相  
次ぎ1946年に岩波書店より雑誌『世界』が、1948年に  
は暮しの手帖社より雑誌『暮しの手帖』(当初は「衣裳研究所」  
より「美しい暮しの手帖」として)が創刊されました。

『世界』は、岩波書店の創業者である岩波茂雄  
(1881-1946)の意志のもと、「君たちはどう生  
きるか」(1937年、初版は新潮社)の著者でもある  
吉野源三郎(1899-1981)を編集長に創刊され  
た総合誌です。戦後日本の変化の激しい時代に、一  
貫して、日本の講和や安全保障、日韓問題、沖縄な  
どの平和に関する問題を扱ってきました。また、  
志賀直哉「灰色の月」、安部公房「第四間水期」を  
はじめ、文壇での主要な文芸作品が扱われたり、大江健三  
郎、中村雄二郎、山口昌男を中心に編纂された論集「叢書文  
化の現在」(全13巻、1980-1982年、岩波書店)へつながる議  
論が展開されるなど、文化的に重要な記事が多数掲載されて  
きた雑誌でもあります。

## 『世界』(岩波書店)と『暮しの手帖』(暮しの手帖社)

いっぽう『暮しの手帖』は、気鋭の服飾評論家であった花森  
安治(1911-1978)が大橋鎮子(1920-2013)と共に創  
刊した生活総合誌です。戦争の影響で物資の少なかつた当  
時、生活に役立つアイデアを発信する雑誌としてはじまり、  
人々の暮らしが大量生産・大量消費型へ変化してからも、商  
品を実際に使用しデータを掲載した企画「日用品のテスト報  
告」などの良質な情報を提供し続けました。花森は自ら、原稿  
の執筆、取材や撮影、誌面レイアウト、表紙画、宣伝広告のデ  
ザインまですべての制作過程に携わりました。ともに日本の  
出版文化に大きな影響を持ち、今日まで続く雑誌です。

近年、世田谷美術館では、岩波書店より『世界』カット原画、  
暮しの手帖社と上井藍生氏より花森による『暮しの手帖』  
カット原画の寄贈をいただきました。『世界』では、中川一政や  
加山又造、駒井哲郎、飯田善國、宇佐美圭司、加納光於など、  
洋画、日本画、版画、彫刻、現代美術と、日本の近現代美術を  
牽引してきた多様な作家が起用され、それぞれに個性ある  
カットを寄せています。『暮しの手帖』では創刊号よりほと  
んどすべてのカットを花森が手掛け、バラエティ豊かな画風  
で誌面を彩りました。

本展では、これらの収蔵品より、『世界』『暮しの手帖』、ふ  
たつの雑誌のカット原画を、紹介します。おなじ時代を異な  
るかたちで歩んだ二誌の展開、そしてカットという表現にた  
しかにうかがえる、それぞれの描き手の魅力を、ご覧ください。



5



6

## The Illustrated World of Magazines: Sekai and Kurashi-no-techo

5『暮しの手帖』創刊号(1948年9月)表紙/6『暮しの手帖』1世紀21号(1953年9月)目次(部  
分)/7カット原画『暮しの手帖』1世紀21号(1953年9月)目次 画:花森安治/8カット原画  
「ふるさとの言葉」より『暮しの手帖』1世紀27号(1954年12月) 画:花森安治/9カット原画  
「作りばなしのしきナンキンマメ」より『暮しの手帖』2世紀41号(1976年4月) 画:花森安治



7



8



9

小コーナー展示 魯山人の支援者—塩田岩治と南 莞爾

### 同時開催企画展

- マルク・シャガール 版にしろした光の詩 2023年7月1日(土)~8月27日(日)  
神奈川県立近代美術館コレクションから
- 土方久功と柚木弥弥郎—熱き体験と創作の愉しみ 2023年9月9日(土)~11月5日(日)
- 倉俣史朗のデザイン—記憶のなかの小宇宙 2023年11月18日(土)~2024年1月28日(日)

### 次回収蔵品展

- ミュージアム コレクションⅢ 2023年12月2日(土)~2024年4月7日(日)
- 美術家たちの沿線物語 京王線・井の頭線篇

- 東急田園都市線「用賀」駅下車 北口から徒歩17分、もしくは美術館行バスA「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車 南口から渋谷駅行バスB「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バスC「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(無料、60台)東名高速道路高架下 厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分

\* ご入館に際しては感染症予防のため、手指消毒、検温にご協力ください。館内で十分な距離を保てない場合がありますので、  
マスクの着用を推奨しております。  
\* 展覧会の会期等が、急遽変更や中止となる場合もございます。会期中の最新情報は、美術館ウェブサイト等でお知らせします。



## 世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL. 03-3415-6011(代表)  
https://www.setagayaartmuseum.or.jp/  
展覧会のご案内:050-5541-8600(ハローダイヤル)